

＜本年度の目標＞

- 学校側からの要望を受け、地域の多くの人にボランティア内容を周知し、参加していただけるようにする。
- 地域と学校が連携し、キャリア教育の視点を大切にした特色ある学校づくりを行い、その活動内容を地域に広めていく。

＜評価項目1＞ 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- 熟議することができた。
 - ・ 学校運営基本方針について、グランドデザイン（構想図）及び学校経営の重点について資料を提示し、具体的な手立てを含めわかりやすく説明があった。校長のリーダーシップと教職員のチームワークのもと、教育課程の共通理解と実践及び定期的な見届けと改善が大切と思った。
 - ・ 「いじめ防止基本方針」については、いじめ防止のための組織、取組、地域との連携、いじめ発生時の対処等のきめ細やかな計画が示され、理解が深まった。
 - ・ 目標に近づく為の仕掛けはしっかりとあった。学校を知り、コミュニケーションを重ねていく中で、広めていく一員なのだと感じた。

＜評価項目2＞ 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

- 熟議することができた。
 - ・ 昨年度の学校支援活動の実践の成果や課題を踏まえ、各学年の年間学習計画の中で外部支援ボランティアの要望一覧を提示されたので、具体的な支援内容や必要な人材などが明確になった。
 - ・ 教科等の学習支援者の募集や校外学習協力施設の募集について、校区のシニアクラブ・社会福祉協議会などの団体には多彩な人材が多いので、声掛けをするとよいと思った。
 - ・ 外部支援を要する場合の留意点について委員から下記の意見がでた。
 - ① 子供の学びの充実につながる事
 - ② そのための教員と支援者との指導計画について事前打ち合わせをしっかりと行う。
 - ③ 指導改善のために教員と支援者との反省会なども必要。
 - ・ コミスクでの支援活動を通じて、子供たちが友達と関わる姿を見ることができ「目指す子供の姿」の「思いやりをもってかかわりあう子」を間近で感じた。また、それを協議会で共有することができた。
 - ・ 学校支援活動ができる参加者を集める方法、現状を踏まえてアンテナを高くして私達も地域とかわかっていく必要性を感じた。子供たちが、地域の人達との交流も進んで自己有用感をもてる子供たちがもっと増えたらいい、そんな思いをもって熟議を進めることはできた。

＜評価項目3＞ 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

- 十分発信することができた。
 - ・ 地域の自治会に依頼し「コミスクだより」を回覧してもらっている。協議会での協議内容、学習ボランティア募集などの記事を掲載している。
 - ・ 紙面での発信がメインだと思うが、学校だより「ふれあいかくろ」や学年通信を発行し、家庭・地域への発信がなされている。
 - ・ CSだよりやホームページを通じて、情報発信ができた。これにより、地域の関心が深まったり、地域住民の参加が進んだりしたと思う。

＜評価項目4＞ 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）

- 創立150周年の節目が過ぎ、新しくスタートする意気込みで、特色ある学校づくりを推進していきたい。
 - ① 学校側からの要望を受け、地域の多くの人にボランティア内容を周知し、参加していただけるように促していく。
 - ② 地域と学校が連携し、キャリア教育の視点を大切にした特色ある学校づくりを行い、その活動内容を地域に広めていく。
 - ③ 保護者向けアンケートの実施やコミスクだよりと学校だよりにより学習支援活動の記事を充実させ、地域の方にコミスクの知名度を上げる工夫を協議会で考えたい。